

長崎大学
NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7994

Autumn

Vol.
45

Choho

長崎大学広報誌
[チョーホー]

特集

長崎大学のいま! 第1回

工学部 教育学部

Choho

長崎大学広報誌 [チョーホー]

Vol.45

長崎大学ホームページ <http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

学びの 森の 風景

Scene 7



長崎大学の3つのキャンパスのなかでも、山影になって原爆被害を免れた片淵キャンパスは、長崎高等商業学校時代からの樹齢の高い木々や過去に植樹された木々が多く、それぞれに学びの空間を彩っています。なかでも中庭は隠れた紅葉スポットです。小ぶりのカエデがあり、秋の到来とともに、一気に赤く染まります。たくさんの学生が行き交うこの場所では、その美しさにとれて思わず足を止め、取り出したスマホでおもむろにパシャリ! そんな一瞬の安らぎを与えてくれるキャンパス内の紅葉も、強い秋風が吹くころには散り始め、赤い絨毯となります。落ち葉が土に戻るまでの、刹那の絶景もまた格別です。 撮影/ 沖田夏樹(経済学部 職員)



特集

長崎大学のいま! 第1回

工学部 教育学部

長崎大学には8つの学部があり、来年さらに9つめの学部が誕生する予定です。

切磋琢磨しているそれぞれの学部の現在と、そこでのトピックスを、

先生方のお話を中心に紹介していく新シリーズが始まりました。

一般的な大学案内や学部紹介ではなかなか伝えられない学部のナマの姿と最新情報、

大学院も含めた新しい構想など、

これから長崎大学を目指す高校生に有益な情報満載の特集です。



学長室
だより

世界を動かす メッセージ

9月8日未明、ブエノスアイレスでの国際オリンピック委員会（IOC）総会で、2020年夏季オリンピックの東京開催が決定しました。日本中が沸き返る、久しぶりの明るいニュースになりました。他の候補地との競り合いを制した最大の要因は、直前の日本チームの最終プレゼンテーションの素晴らしさにあったといわれています。私も8人のプレゼンターのスピーチ全てを視聴しましたが、特に若い二人のアスリートのスピーチには瞠目させられました。大変な重圧がかかるなか、笑顔を変えながら、自らの体験を通してスポーツの素晴らしさやオリンピック日本開催の意義を、IOC委員に訴えかけました。英語による説得力あふれる堂々たるスピーチは、現代の日本の若者の大きな可能性を世界に強くアピールするもの

であったと思います。そして、国際公用語としての英語の重要性もさることながら、相手に伝えようとする志や情熱こそが、聞く人の心に訴え世界を動かす力を有することを改めて示してくれました。



長崎大学も、あのような国際舞台で、存在感を発揮することのできる若者を多く育てるべく、がんばっています。しかも、長崎大学でしか育てることのできない個性あるグローバル人材です。国際レベルの英語力に加えて、日本や世界のことを“長崎”という窓を通して理解し、地球や次世代に貢献する熱い情熱と志を有する人材です。彼等はきっと、工学部や教育学部など“現場に強い”本学独特の実学の伝統に培われた卓越した専門職業人としての素養を、世界の舞台上で縦横に発揮してくれるはずで

長崎大学長 片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
「チョーホー」
Choho Vol.45

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	世界を動かすメッセージ	1
特集	長崎大学のいま!	2
	工学部	3
	教育学部	7
TOPICS	多文化社会学部	11
TOPICS	グローバルリーダー育成プログラム	13
卒業生に聞く	村山友美さん	17
グラバー図譜	ナスカザメ	19
Information	長大祭2013&ホームカミングデー	21
	長崎大学リレー講座2013	21
	長崎大学「通」クイズ	22
	編集後記	22

表紙のはなし

長崎大学が誇るよさこい部「突風」。昨年開かれたYOSAKOIさせば祭りで準大賞を受賞。今年11月に行われる長大祭にも出演するので、ぜひ生でご覧ください(詳しくはP21)。ちなみに撮影日は酷暑の8月末。疲れも見せずに何度も快く踊ってくれました。



七つあった学科を 工学科一つに

工学部といえば、三年前に、それまで七つあった学科を「工学科」一学科に統合するという大胆な機構改革を行いました。入口を一つにし、中を六コースに分けたのはなぜなのか。どんな効果が現れたのか。石松隆和工学部長と植木弘信副研究科長にお尋ねしました。まずは石松先生です。

「学科の数を減らすのは最近の全国的な傾向ですが、一学科とした長崎大学の取り組みは全国的に注目されています。これまでは学科ごとに決められた定員があり、学科の人気によって、入りやすさに差が生じていました。そのため、受験する学科を選択する際に、入りたい学科よりも入りやすい学科を選ぶ傾向が見られました。その結果、「本当は、この学科よりあの学科で学びたかったのに」という不満がくすぶっていました。そのような状況を改善するために、合格者の決定は、希望するコースを考慮に入れず、得点のみで行うようにしました。そして、合格者を、可能な限り希望するコースに割り振るようにしたのです。その結果、コースの選択が受験の可否に影響することが、

ほとんどなくなりました。また、希望するコースに入れる可能性も高くなりました。改革前には、高校の先生方から「本当に希望のコースに行けるのですか」と心配されたのですが、実際には、ほぼ一〇〇%近くの学生が第一希望のコースに行っています。入試倍率も急上昇しました」。学生のための改革が功を奏したということですね。

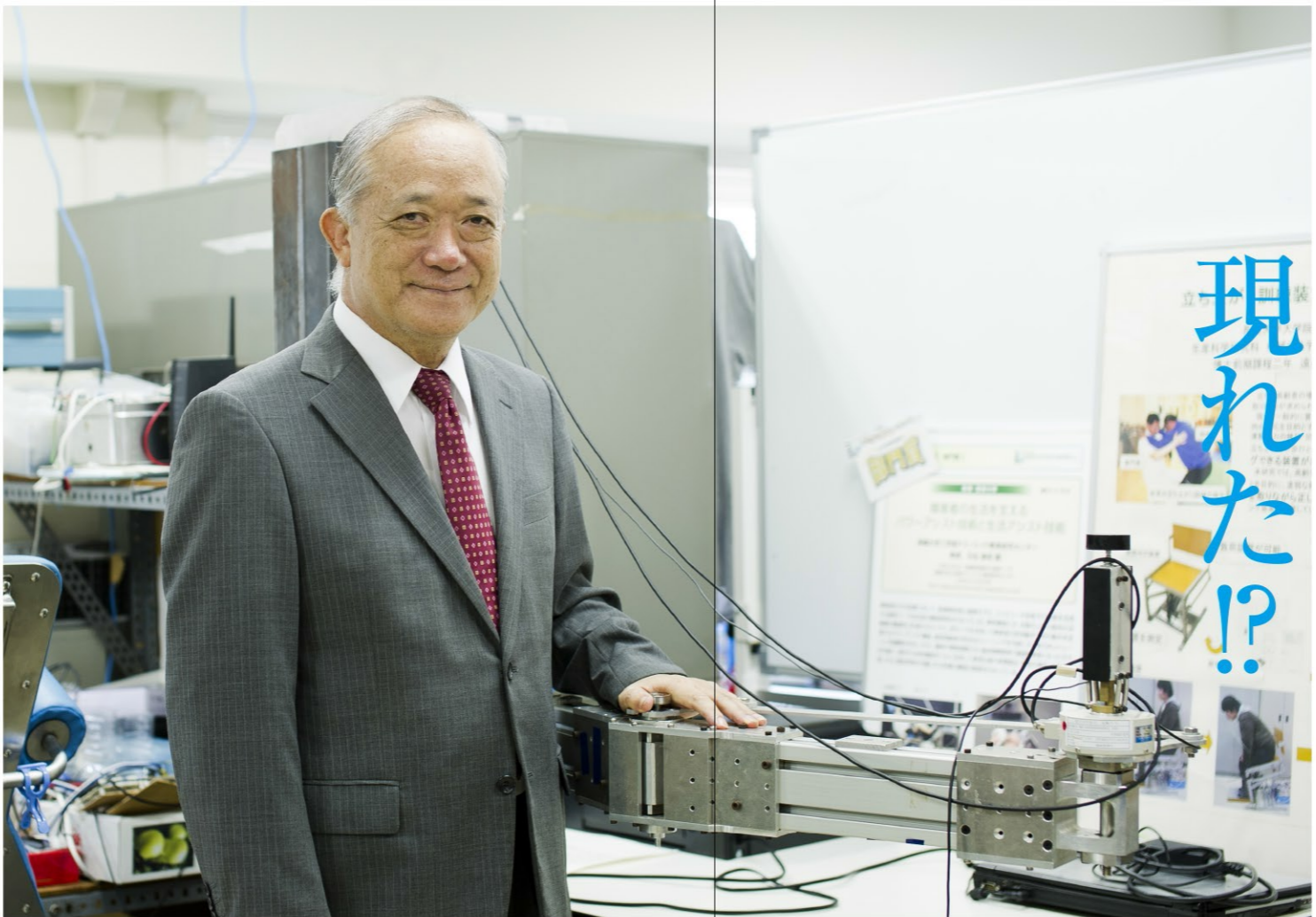
「そう思います。また、これまでは各学科の先生が、自分の学科の枠のなかで工学基礎科目を教えていましたが、枠を越えて学部全体で教えるようにしたことも良い成果を生んでいます。物理や化学では、最も専門の近い先生が教えることが可能になると同時に、物理や化学の実験も効率良く実施できるようになりました。これがとてもいい。やはり座ったまま一方的な講義を聴くよりも、体を動かし自身も参加しながら脳を鍛えるほうが身に付きます」と石松工学部長。植木先生も語ります。

「実験専用のサイエンステクノロジーができたので、実験でガン鍛えられます。実験が増えたことで思わぬ成果もありました。実験では教員だけでは目が行き届かないので、大学院生がティーチングアシスタント(TA・教育補助者)に付きます。学生に

長崎大学のいま！

工学部

改組して三年、 その効果は 学生の眼の色に 現れた!?



石松隆和

工学部長

いまつたかかず
長崎大学大学院工学研究科教授。一九七九年九州大学工学研究科生産機械工学博士課程その他二〇一一年より現職。専門分野は機械力学制御、知能機械学、機械システム。剛がいの自立支援ロボットや長崎の斜面地に住む高齢者のための介助具などの開発研究がテーマ。

ミャンマーでの 人材育成をはじめ、 国際的な動きも

もうひとつ、今まさに動き出しているのが、国立六大学が連携してミャンマーの人材育成に取り組む国際協力機構(JICA)のプロジェクト。長崎大学がその中心的な役割を担っているそうです。

「工学部として、ミャンマーで何かしたいと探っているうちに、六大学(千葉大、新潟大、金沢大、岡山大、長崎大、熊本大)で連携して実施する教育プロジェクトがトントン拍子にまとまりました。ミャンマーのヤンゴン工科大学とマンダレー工科大学の教員の教育研究力をアップするために、国際共同研究の実施や、博士号を持たない教員の学位取得の支援を行います。同時に両大学の、機材をふくむ教育環境を整えます。人材育成から始まり、最終的には産業育成につながる大きなプロジェクトです。工学研究という点、これまでは欧米志向でしたが、今や科学技術はアジアやアフリカ、そして中近東で展開されようとしています」。確かに、長崎大学の海外拠点を中心とした各学部の動きなどを見ていると、可能性は無限大ですね。



水の電気分解と燃料電池の実験。

抵抗回路の試作、測定実験。

研究者の連携がカギ 未来工学研究センター

とっては身近な存在として質問しやすいし、TA側も教えることで会話力を鍛えられる。そもそも工学部には、人と話すのが苦手な学生が多いのですが、TAを経験することで、大学院生のコミュニケーションスキルが向上しています」。

実際に実験の授業をのぞいてみました。高校での授業と比べ、物理や化学の基礎実験が思う存分できるのは、学生にとっても魅力的。TAの細やかな指導もあり、積極的に参加していました。

「このセンターは工学研究科の研究者が連携してプロジェクトに取り組むもので非常に画期的です。現在テーマは七つで、スマートコミュニケーション、生体防御や疾患治療システム、介護・福祉ロボット、クラウド型情報インフラストラクチャ、諫早湾調

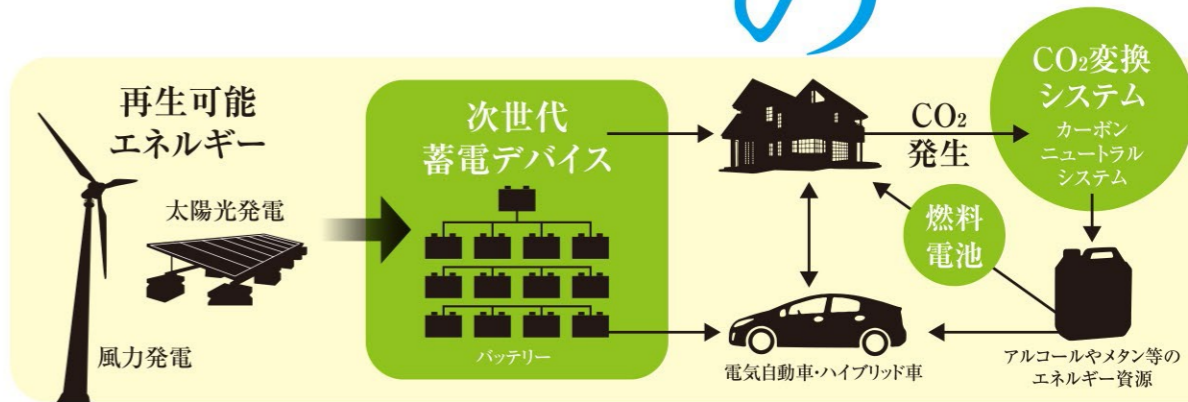
整池の水質動態予測モデル、革新的低炭素技術、そして次世代磁石探索の研究。センターが中心になって、関連する学内の研究者たちのチームをつくり、それに企業や公的研究機関、市や県などの行政が加わり、情報共有をしながら進めていくものです。本プロジェクトが世界に向けて、また地域を舞台に成果を出せたら、素晴らしいでしょう。その最初の足掛かりとなる動きが始まっています」。どれも、私たちの生活に関わりのあるテーマとして、新しい可能性が広がっています。

二酸化炭素がエネルギーに!?

次世代エネルギーの 基盤構築

地 球温暖化など、グローバルな環境問題に直結しているのが、効率的なエネルギー利用や再生可能な新エネルギーの開発。長崎大学では重点研究課題の一つとして、この新エネルギー技術開発に取り組んでいます。大学院工学研究科の森口勇教授を中心に、化学や物質科学分野で活躍する若手研究者が集結。革新的なエネルギー材料や物質合成技術の開発に挑戦しています。「図に示した、エネルギーをめぐる流れのなかで、特に重要なのが、電気自動車の動力源になる次世代蓄電デバイス材料の開発です。より多くのエネルギーが貯められれば、自

然エネルギーで作った電気が安定的に使えるのです」。風力や太陽光といった自然エネルギー開発と同時進行で、その電気を貯める技術が求められているのですね。「また、新エネルギーとして二酸化炭素(CO₂)に着目しています。CO₂に光エネルギーを加えることで、アルコールや燃料に替えられるのではなか、と」。世界各国が、いかにCO₂を減らすかに四苦八苦している今、それがエネルギー資源に変換できるとなると、まさに一石二鳥ですね!「これら、将来性のある研究課題について、長大は最先端を走っています。それぞれの専門分野のエキス



パートの先生が、専門を越えて協働を取り組んでいます」。もちろん先生方だけでなく、学生たちも研究や学会の発表などで活躍し、海外研修に行く率も高いのです。

増え続けるIT機器の消費電力 サーバの省エネは緊急課題!

I T機器の消費電力は二〇二五年には五倍になるともいわれています。確かにスマートフォンなどの爆発的なヒットもあって、通信量はますます増えていますね。困るのがバックアップするデータセンターの電力問題。そこで、センターの消費電力を三十%削減させる電源システムを研究するというミッションにNTTファシリティアーズ、三菱電機そして長崎大学のグループが選ばれました。実はこれ、産官学の英知を結集して産業技術の競争力強化をめざそうとNEDOが立ち上げた「グリーンITプロジェクト」の一環の「データセンターの電源システムと最適直流技術の開発」というプロジェクト。長崎大学で中心となっている大学院工学



※NEDO/独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

本物そっくりの魚ロボットが医療で宇宙で大活躍

生 物のメカニズムを新しい技術に応用しようという動きが、最近注目されています。今年度から大学院工学研究科に赴任した山本郁夫教授は、かれこれ三十年も魚ロボットの研究を続けてきたバイオニア。「プロペラに代わる効率のいい動きや、回転体による巻き込みが少なく対象物を傷つけない弾力的な動き。水中をかき乱すことのない環境への優しさ。それらは魚など水中生物にヒントがたくさんあります。例えば、外科手術用鉗子ロボットは、魚のしなやかで力強い動きを再現した水中ロボットの弾性

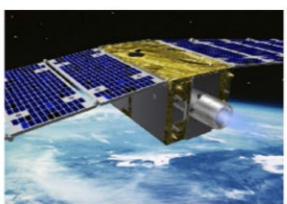
メヤ力強く躍動するイルカロボットを開発中です。学生と新しいものを作るのが何より楽しいですね」と語ります。長大の新しい個性になりそうですね。

先生が持っているのはシノメサカタザメ型ロボット。強しなやかな動きが外科手術用鉗子ロボットの物をつかむ先端部分に応用されています。



は、宇宙船の損傷検査や掃除ロボットとして、宇宙飛行士から高い評価が得られました」。山本先生の持っている特許は一一〇以上。「今は小回りがきくサ

デジタルで制御できる衛星エンジンの開発



電気推進を搭載した実証衛星のイメージ図。 Photo by JAXA-MELCO

ケ ニアでは、ここ数年ロボットコンテストが大変な盛り上がりを見せており、アフリカ拠点を持つ長大としても支援を行っています。今年二月に行われた現地高等教育省の主催するロボットコンテストナイロビ大会には、大学院工学研究科の若手講師陣がコーチとして参加。技術指導のセミナーを実施した柴田裕一郎准教授のお話です。「セミナーには、ケニアの三十の大学から三〇〇人以上の学生が集まりました。自作のロボットを持ってきて、見てくれ」とアピールする学生もいて、技術を吸収しようという意欲がすごいんですよ。同じく講義をした諸表俊司助教も「デモ用のロボットを二台持参しました。現地では

ケニアの「ロボコン」に若手研究者が コーチとして参加

「日本のように部品が簡単に手に入らないが、どうしたらいい?」と聞かれて、「日本も昔の何もない時代に精巧なカラクリ人形を作ったんだよ」と語ると、「そうか!」と。技術者はクリエイティブが大切、ということも伝えられました」と語ります。今回は、ロボットの完成度はさておき、廃品の部品をうまく使うなど、彼らの卓越した能力も発見できた、と先生方。今後も研究者レベルでの相互交流が期待されます。



持ち込んだ日本のロボットを開き議論している、ケニアの学生たちと先生方。

大学と附属が連携して
授業アーカイブを蓄積

長崎県で採用される小学校教員のうち、長崎大学教育学部卒の割合は約六割。これは全国の国立大学の中では上位に入る好成绩なのだそう。つまり長崎で先生になりたいと志す受験生は、長大に行くのが一番の近道ということ。山路裕昭学部長にお話を聞きました。

「うちの教育学部の場合、附属の四校（附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校）があり、かなり密度の高い教育実習ができるのが強みです。しかも昨年度からは、この附属での実習をビデオ撮影して、それをネット上で蓄積する『授業アーカイブシステム』を導入しました。学生自身も自分の授業を客観的に観られるし、私たち大学の教員や学校の先生方も情報共有できます。どんどん蓄積していきますので、去年の授業と今年の授業を比べることも可能になります。それと同時に、教職を退職したベテランの先生方をアドバイザーとして採用し、実習現場のトラブルや学生の精神的なケアに活躍してもらっています」。

実習現場のトラブルといいますが？

「学生が授業をうまくできなくて悩んだり、急にやる気がなくなったり。我々も目が届かない問題を小さなうちに早めに見つけて、適切な対応をとってもらいます。実際に現場に出ると、それぞれ異なる個性を持った子どもたちを相手にしますので、習ったことと違うととまどう学生も多いのです」。

**驚くほど豊富な
実習のバリエーション**

「附属だけではなくありません。長崎市内の小学校にどんどん入っていく、運動会などのイベントの手伝いをしたり、授業に遅れがちな子を個別に教えるなどの学習支援も行っています。これは学校に喜ばれますね。そのほか、ボランティア実習、地元企業での実習、野外体験実習など、四年間のなかには多様な体験学習メニューが用意されています。特にインパクトが大きいのが、五島など

の離島に一週間ほど行き、泊り込んで島の人々とも交流しながら教育を学ぶ離島実習でしょうか。子どもの数が少ないため複式学級（二つ以上の学年を一つにした学級）の場合もあります。今年からは南島原や松浦など実習場所をふやして展開しています」。

いろいろなタイプの実習カリキュラムがあるんですね。

これは学校に行っています。これは学校に喜ばれますね。そのほか、ボランティア実習、地元企業での実習、野外体験実習など、四年間のなかには多様な体験学習メニューが用意されています。特にインパクトが大きいのが、五島など

「近年の学校ではベテランの先生方が大量退職し、教師の数が足りなくなっています。これまでのように若い先生を一から育てて育てる余裕はあまりありません。求められているのは、より質の高い実践力のある教員、タフな教員なのです。そこでもう一つ、現在準備を

進めているのが、教職大学院のリニューアルです。教職大学院は新しい形の大学院で、全国では私立も含めて二十五カ所作られています。専門職大学院の一種で、実践力のあるプロの教員を養成する大学院です。今回のリニューアルでは、来年の四月から従来の修士課程も取り込んで教職大学院に大学院を一元化する計画です。これは全国でも初めての試みで、他大学からも注目されています」。

それはどんな内容なんでしょう。「教職大学院のなかでは、特別支援教育、学級経営、教科教育などに特化した三つのコースでスペシャリストを養成します。実習も学部よりずっと多く、内容も自分なりの実践的な課題研究を盛り込むなど、かなりハードです。より実践的な教員の養成を行い、修了時には、教職修士（専門職）の学位と教員の専修免許状を取得できます。また、

長崎大学のいま！

教育学部

タフで実践的な 教員を養成するための

新たな取り組み



山路裕昭
教育学部長

やまじひろあき
長崎大学大学院教育学部研究科教授 一九八〇年
広島大学大学院教育学部研究科教科教育学博士
課程単位取得満期退学 二〇一〇年より現職。
専門分野は教科教育学。田ノ浦の科学教育に関する研究がテーマ。

現職の教員を受け入れて再教育する目的もあります」。

一度現場で教えた先生が、学びなおすこともあるんですか？

「はい、そのニーズがあります。先生になったものの、自分に足りない部分が見えてくると、そこを学びなおしたいというケースですね。これからの大学は、ますます地域教育の中心としての重要性が増しています。養成、研修など、いくつもの場面で大学と県や市の教育委員会、そして学校がつながりながら機能していく時代ということでしょう」。

海外の事例を見てみると、時間をかけて専門職としての教員をしっかりと作るというのには世界的な流れのようです。将来的には学校の先生の多くが大学院の修了生という時代が来るかもしれません。



附属4校はここ数年ですべて改修工事を行い、キレイで使いやすくなりました。各施設のサインなども可愛いデザインに。

蓄積型体験学習

島へ！へき地へ！ 地域の輪のなかへ



週間の実習を終えた学生が、子どもたちと抱き合って泣きながら別れを惜しむ。そんな光景が繰り返られるのが離島実習。ここでは、学校だけでなく地域の輪のなかに入り、人々といっしょに活動する貴重な体験ができます。長崎大学では教員養成課程の中心に独自のプログラムとして『蓄積型体験学習』があり、これはその一つ。附属教育実践総合センターの小原達朗教授にお聞きしました。

割などを、理屈ではなく体全体で学べるのが離島実習のいいところです。長崎県で教員になると離島勤務は必ず体験します。その意味でも複式学級の運営の仕方などここでしっかり学べますね。また

県外からの



教育実習の一コマ。給食の時間は子どもといっしょに食べます。「楽しくたくさん食べられる雰囲気づくりは大切です。いってみれば食事の量は元気で積極的なクラスのバロメーターなのです」と山路先生。

学生は、島の小学校などはなかなか体験できないとあって積極的に参加しますよ。今年からは陸続きのへき地の小学校へ行くメニューも加わりました。そのほかボランティア実習や地元企業での体験学習など多彩な実習が体験できるんですね。「いずれも、学生が自分たちで手配するのです。実習先を決めることから始まり、電話して説明をしてアポイントを取る。企業の場合は企画運営から入ります。主体的に関わるので社会常識も身に付きますよ。」なるほど、それは大事なポイントですね。実習委員長の佐藤敬助教授にもお聞きしました。「附属学校の場合、言ってみれば内輪ですから、実習とはいえ学生側には実際の現場というより授業の一つといった感があり

ます。子どもたちは実習生に何度も接しているので、上手にできなくても優しく見守ってくれます。ところが一般の学校での学習支援などではそうはいきません。相手が実習生だろうが先生だろうが関係ないし、反抗したり、まともにぶつかってくる子もいます。ただ、いきなりそういう現場経験をさせるわけではありません。一年では参加観察実習とあって、授業の様子を身近に感じながら観察するところからスタートするので、じわじわと慣れていくわけです。」カリキュラム全体に力を入れる実習時間の比率は他の大学に比べて大きく、現場で鍛えあげていくのが長大教育学部のいいところ。「長大出身の教員はタフだ」と、学校での評価も高いのです。



離島実習では少人数の子どもとしっかり向きあいました。「地域でも学校でもみんな名前を知っているので名札を付けた子どもがいらない。私たちが名札のない先生になってすぐ溶け込めました」という感想を書いた学生も。島全体で子どもを育てていることを実感しました。

一年間の 継続的な交流 親子広場 「この指とまれ」

大 学が地域に貢献できることは何か。そんな問いからスタートした企画が「この指とまれ」。二歳から三歳の子どものお母さんの親子十四組が、週一回、教育学部内にあるプレイルームに集まり交流します。企画運営は子ども保育専攻の学生たち。担当の井口均教授は語ります。

「以前、長崎で幼児が犠牲になった痛ましい事件がありました。その加害者である子どもが幼児期から暴力的で、お母さんも相談もできずに孤立していたという話を聞き、大学としてやれることがあるのではないかと考えたのがきっかけです。試行錯誤を経て、今では長崎市の広報誌で募集した親子と一年間交流していく形になりました。このプログラムの年間行事はお誕生会や芋の苗植えから芋ほりなど。お母さんたちも交流して、時には私が加わって悩み相談などの時間を持ちます。」

学生は早い時期に自分と相性のいい子どもを見つける、つまりペアを組んで一年を通して一緒に遊びます。難しいといわれるこの時期の子どもの成長を年間通して観察できます。なんとこのプログラムは授業の一環でもあるのです。

「午前中に交流をし、午後は記録と分析の反省会。最初は子どもからお母さんたちを離し、お母さん同士で話せる環境を大切にします。一年たつと子どもも親も変わってきますよ。」悩める親子は明るくなり、学生も勉強になる。まさに双方にメリットのある好例ですね。



キャンパスや公園へ遊びに行くこともあります。

3Dを使った 新しい形の 平和学習モデル

デジタル画面には被爆直後の3Dメカネをかけたもので、3Dメガネをかけるのと、あたかもその場所に立っているかのよう。スマートフォンにも連動しており、先に実際に街歩きを体験し、歩いたコースが画面に表示されるという仕掛けです。このバーチャルリアリティシステムは、藤木卓教授が中心となって開発。現在、国立原爆死没者追悼平和祈念館の交流ラウンジで修学旅行生や地元の子どもたちだけでなく、一般の方も体験できます(要事前予約)。「私自身も長崎出身ですが、被



3Dメガネをかけて観る子どもたち。

爆体験継承をはじめ、平和教育は曲がり角に来ているように思います。復興した街を歩いただけではピンとこないという話もあり、現在と過去をつなぐ視点で振り返りの学習ができなかと考えました。昨年二月にお披露目したのですが、祈念館の館長さんにも高い評価をいただきました。疑似体験まではいきませんが、街が無くなってしまう喪失感や多くの人々の平和希求への願いを今の子どもたちに感じてもらえれば嬉しいです。」CGの制作過程では、学生たちが数多くの被爆写真資料を見比べる作業を重ね、フィールド調査も行いました。今年は料金を得て、さらにクオリティをあげるためにCG制作をプロに発注、四年後のシステム更新と総合的な平和学習の実現をめざしています。



事前予約でもかなりの数になったため、当初予定していた2クラスを一つ増やしての体制でした。しかし当日は、開始15分前には3クラスの用意していた席がほぼ埋まってしまふほどの盛況ぶりでした。

新学部
Topics

多文化社会学部

多文化社会学部公式ウェブサイト
<http://www.hss.nagasaki-u.ac.jp>
 長崎大学 多文化社会学部 検索
 長崎大学新学部創設準備室
 TEL.095-819-2030 FAX.095-819-2235
 (E-mail)hss_info@ml.nagasaki-u.ac.jp

(平成26年度新設予定)

受験生はココが聞きたい!
多文化社会学部のツボはココ!

大盛況だったオープンキャンパスでの学部概要説明と模擬授業

来年度に新設予定の長崎大学の新しい学部「多文化社会学部」。七月二十日に行われたオープンキャンパスで学部概要説明と模擬授業が実施されました。「なんでも相談室」の担当となり、受験生や保護者の方々の質問に答えた葉柳和則教授に話を聞きました。

「非常に熱心な高校生や保護者の方々が多かったですね。この学部のホームページや配布されている入試大綱、選抜方法などを事前にしっかり読み込んでから足を運んでいただいたようです。質問が多かったのは、入試の個別学力検査で行う『批判的・論理的思考力テスト』とはどういうものか、国語のテストや小論文とはどう違うのか、という問い合わせです。配点も高いので関心が高かったようです。このテストはセンター試験の問題とは解き方がかなり違います。例えば、一つの新聞記事を読ませて、『この主張が成り立つ条件は何だろうか。他にどんな資料が必要だと思うか』といったことを考えてもらいます。正解は一つだけではないし、出題者が考えもしなかった点を指摘すれば高い評価が与えられます。クリティカルシンキングと言われるものです。大学の学びは本来、一〇〇点に向かって正解を積んでいくという高校までの学びとは異なります。先生の言っていることを鵜呑みにするより、先生を乗り越えて、自分の領域を広げていくことが求められています。」

サンプル問題と解答例をホームページで公開

そうすると受験生はどういう勉強や対策をたてたらいいのでしょうか。

「新しい学部ですから、いわゆる『過去問(過去の入試で出た問題)』がない。それを不安に思う受験生もおられるようです。そこで、サンプルになる問題と解答例を作り、九月末にホームページで公開しました。他の大学で、新学部ができるときに、サンプル問題を作ったという前例はなく、画期的な試みです。」

なるほど、それは重要な手がかりになりますね。「はい、かなり不安は取り除けると思いますが。これは実はそういう頭の使い方をする学生を求めているという、受験生へのメッセージでもあるのです。それからオープンキャンパスでよく聞かれたことの一つに、入学後の一人一人の学生に対する丁寧な指導体制はあるのかという点です。これはかなり自信のあるところですね。一年のスタート時に新生全員が参加するトランジションプログラムがあるのですが、ここでは一〇〇人の学生を十人ずつのグループに分け、この十人に対して教養ゼミナールの先生、英語の先生、コーチングフェローという学生と先生をつないでいく立場の職員の三人がサポートします。」

つまり三人がチームを組んで十人の学生をみるんですか? 学生にとって行き届いたシステムですね。

「はい、これは国立大学の中でも非常に手厚くて文部科学省からも評価されています。長大の新学部は英語学部なの? という誤解がまだあるようですが、英語だけでなくグローバルに活躍するための専門性を身に付けていく学部であり、卒業時に求められるのがかなりハイレベル。そのために、入口の時点で丁寧な指導体制を整えているのです。」

「正式に設置が決定するまでは、あまり多くの情報が出せない状態ですが、可能な限りホームページなどで最新情報を発信していきたい」という葉柳先生。個性的な教員陣も着々と顔をそろえているようです。多文化社会学部、今後も目が離せません。





前

号にひきつづき、今年度から始まった長崎大学「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」のレポート第二弾です。世界で活躍するリーダーを養成しようという文部科学省の「博士課程教育リーディングプログラム」は、日本の大学院改革の目玉的存在。全国の大学から申請された一二四件のなかから最終的に採択された二十四件は、各大学の特徴を活かした多彩なものばかり。熱帯病や感染症の分野でのグローバルリーダーや感染症制御専門家育てるプログラムが採択された長崎大学では、大学院医歯薬学総合研究科が中心となつて動き出しています。必要とされるグローバルリーダーの条件とは何か？ また、そこではどんな講義が行われているのか？ 担当の先生方やそこで学ぶ学生たちにお話を聞きました。



大学院プログラム

感染症研究の経験と実績が豊かな長崎大学で

大学院医歯薬学総合研究科 本間季里 准教授

この長崎大学のプログラムの大きな特長の一つとして、学部横断的な教員団がカリキュラムを組んでいること。なかには外務省や世界保健機関(WHO)、国際協力機構(JICA)などでの勤務経験のある教員もチームに加わっています。まずは携わっている先生方にお聞きしてみましよう。

予想通りのことと予想外のこと

大学院医歯薬学総合研究科 本間季里 准教授

このプログラムは、新しい試みだけでなく前例や見本がありません。そこで、方向性を決めて講義全体を構築していく四人の先生方がいます。そのなかの一人、本間先生にお話を聞きました。「私たちの役割は、講義のテーマやデザインを綿密な打ち合わせの下に決めていくことです。一年生では主に課題解決型授業。例えばプレゼンテーションの練習では、学生に与えるテーマも、いろいろな見方のできるものをわざと設定します。学生はそのテーマの重要な部分や問題点を理解し、人に説明できなければいけない。冗長にならないよう制限時間は厳守。ここで体得し

世界のリーダーを 目指す！

たスキルを磨くことで、答えが示されていない問題に対して短時間で答えを見つけ、多様な見方を理解する力が身に付きます。特に日本人の場合、大学までは一方的に座学でおぼえて正解を求める思考習慣があります。そこで、問題は何かのかを発見し、その解決方法を探る思考パターンにシフトする必要があります。四年後にリーダーとなるべく、素養を身に付けて修了するには、プレゼンやディスカッション、的確な質問ができる能力は必須。そのあと、二年生では三週間から三カ月間、国外のいろいろな機関や研究室で武者修行。また、危機管理や倫理学の講義で知識を深め、三、四年生では自分の

テーマを決め、論文を書いて学位を取るという流れです。まず、基礎力をしっかりつけて海外研修をこなし、自分のテーマを見つけるハードな四年間なんですね。経済的支援があるから勉強に集中できます。「私たちも初めての試みなので、学生の反応をみながら試行錯誤の繰り返しです。最初、発言するということに慣れてないため日本人の学生が静かでした。私たちは、彼らがこれまで受けてきた日本の英語教育の問題があるのではと考え、英語のプライベートレッスンを実施してみました。するとすぐに、積極的に発言するようになりモチベーションも向上し、学生同士で情



熱帯医学研究所 Laothavorn Juntra 教授

報交換ができるようになりました。教員が少し工夫するだけで、学生の方がその意図を理解して実行する力を持つていた。嬉しい意味で予想を裏切ってくれて驚きました。これからの楽しみですね」。

WHO勤務の経験を活かしたプロのリーダーを育成

熱帯医学研究所 Laothavorn Juntra 教授

チャントラ先生は、熱帯病や人材育成分野の治験コーディネーターとして、世界保健機関(WHO)で十四年間従事してきたキャリアを持っています。「私はWHOで、主に臨床研究が行われる際の質の保証に携わりました。国際的な臨床試験実施基準や患者に対する倫理基準に則っているかどうか。また、研究倫理に関するグローバルネットワークの設立を支援したり、医薬品開発に関する管理業務などを流行国の疾病撲滅や制御プログラムに導入するなど、質の高い研究の支援に関わることができました。治験コーディネーターの仕事の範囲は幅広いので、広い視野が必要とされます。一方、WHOは一九二カ国で構成されている組織なので、政治的な一面もあります。研究者としてはいつも自由に考え、適切だと思ふ方向へ物事を動かすよう努力してきましたが、変革をもたらすには、利害関係者の協議や議論に時間を要することもあります。難しい問題ですね」。

そのあたりは現場での経験がなければ見えてこない部分かもしれません。

「はい。私の専門は医薬ワクチンの開発能力強化に関連することですが、リーディングプログラムでは専門的な知識や技術だけでなく、これまでの私の人生経験やネットワークを、学生と分かち合いながら創造性を育んでいきたいですね。その創造性からイノベーションにつなげた。学生が国際機関で実習を体験する局面では、精神的な支えや進路指導を行うメンターなども担当しますが、さまざまな文化にも学生が順応できるように手助けしていきたい。研究の分野

カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ○1年次では基礎科目を分野横断的に学ぶ(ウイルス学特論など必修7科目、国際経済学特論など選択4科目、分子生物学実習) ○2年次では応用科目として感染症制御に関する知識を習得(フィールド疫学特論など必修6科目) ○4年間通して英語によるトレーニング「コミュニケーションスキル」実習 ○海外研修は早期(1-3ヵ月)、後期(3-18ヵ月)を実施
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○全カリキュラム完全英語化 ○41名の教員団ほか第一線で活躍する専門家など産学官にわたる教育体制 ○ケニア・ベトナムの長崎大学拠点ほか、WHO、「国境なき医師団」などの国際NGOと連携したon the jobトレーニング ○学生の設定する研究分野にそったメンターを指名、キャリアパスを支援 ○奨励金制度、海外研修経費支給制度を新設
特記事項	○学位記に「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」修了を付記

で国際的に成功し認められるには原則があります。誠実であること。プロ意識を持つこと。説明責任を果たすこと。そして人々や地域社会に対する尊敬の念を持っていること。これらを守るプロの研究者やリーダーが長崎大学から一人でも多く誕生するように、力を尽くしていきます」。

英語を共通言語として表現力を鍛えていく

言語教育研究センター

限上麻衣 助教

コミュニケーションスキルクラスを受け持つ限上先生の専門は、第二言語習得論。

「当初、ネイティブかどうかでクラスを分ける話もあったのですが、学生たちがいつしよの方が聞く耳も鍛えられるというの



言語教育研究センター
限上麻衣 助教

で一つにしました。実際、国際学会ではクセのある英語が飛び交います。母語から影響された独特の文法的な誤りがある場合、さらには文法が正しくても聞き取れない場合もあります。例えば日本人は「a」「the」など冠詞を落としたりしやすい。それらを自覚してミスを少なくし、また、クセのある英語でも聞き取れるようになってほしい。この授業は、英語を共通言語にしてさまざまな場で適切に対応する力、きちんとした思考でライティングする力を養っていくのが目的です」。

英語がしゃべれるようになればいいだけじゃないですね。

「はい、授業では種々のテーマで語り合いますが、国によって違いのあるものは特に活発な議論になります。『受験のシステムの違い』とか『SNSを使うのは良いか悪いか』。学生からは『愛かお金か』というテーマを提案されたこともありました。後期ではロールプレイング、例えばお医者さん役と患者さん役に分かれての診察の場面や、国際会議での質疑応答の場面などを設定して進めていきます。基礎科目の講義で身に付いた単語力を、自然に活かせるようになればと考えています」。

プログラムの中身とは？ 講義をのぞいてみると...

「ウェルカム トゥ レイニー シーズン!」。梅雨入りした朝、そんな一言から始まったのが、リーディングプログラムの「コミュニケーションスキル」講義。教壇に立つのは言語教育センターの山下龍助教。オランダから日本に帰化された方だけに日本語も話せますが、ここではもちろん英語。いや、このプログラムのカリキュラムすべてが英語なのです。前期の学生は九名。なかにはアフリカやアジアからの留学生もいます。一年次で学ぶウィルス学などの基礎科目や二年次の感染症制御関連科目のほかに、四年間通して徹底的に鍛えられるのが、このコミュニケーションスキル。この日のテーマは「武士道とは?」。学生のレポートを題材に、「葉隠」「新渡戸稲造」といった言葉が飛び交い、話題は膨らんでいきます。授業後半は限上先生にバトナツッチ。席を立ち、二列に向かい合って一対一の会話エクササイズ。「あなたの国の魅力は?」「毎日の食生活の特徴は?」「相手を順に入れ替えて会話するうちに、無口だった学生も英語が口をひいて出て、表情が豊かになっていきます」。



フィールド経験豊かな皆川先生(左)と、その講義の様子(上)。



Topics

Program for Nurturing Global Leaders in Tropical and Emerging Communicable Diseases
熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム



また、熱帯医学研究所の皆川昇教授による「病害昆虫学特論」の授業では、病害動物学を題材にしたプレゼンテーションが行われました。グアテマラの病害虫やマラリアを引き起こす蚊に関する調査結果や考察など、事前に出されたテーマを自分なりにまとめ、パワーポイントを使いながら英語で発表します。発表後は先生の講評をはじめ、ほかの学生からの質問や意見が飛び交い、活発な討論が行われていました。

チームメイトは留学生 違いを理解し、世界へ

どんな学生ががんばっているのでしょうか。日本人の今西望さんとウガンダから留学しているラッキー・アムザさんの二人にお聞きしました(ラッキーさんの通訳は今西さん)。今西さんは明治大学農学部で修士を取り、長崎大学で学んでいます。「専門は昆虫分類学、特に蚊が中心。それだけに医学や疫学を学びたくて長大に進学しようと思っていたら、このプログラムを知り応募しました。もちろんリーダー育成という重いプレッシャーはあります」。一方、ラッキーさんは医療薬学総合研究科で、すでに二年間学んできました。「将来的には学んだ薬学を活かせる本国の研究所で働きたい。このプログラムはすべて英語で行われると聞いて、僕にはやりやしいかなと応募しました。しかし入ってみると、国が違えば英語の



プログラムスタート時の最初のメンバーだけに、国籍は違っても、とても仲のいい学生たち。写真撮影でも全員集合。「でもいっしょに遊びに行ったことはないね」「やるが多すぎて毎日講義が終わるとバラバラになっちゃう」「今度企画しますか」「いいねえ」。

アクセントも違い、最初ほとんどいきました。アフリカイングリッシュにクセがあるように、ベトナム、タイ、日本の英語もアクセントが違う。でも、だんだんと聞き取れるようになってきましたよ」とラッキーさん。今西さんも「とにかくしゃべらなさいといけない環境に放り込まれるのがあるがたいです。クラスメイトとは、さまざまなテーマで議論もします。みんな国によって違う考え方や価値観を意識しながら、それでも相手を理解しようとしています。先日は日本人の先生に日本語で質問して

いたら、外国人のクラスメイトから「あなたはフェアじゃない、日本語のできない人間がいるときは英語で話すべきだ」とズバリと言われました。それはたぶん、国際感覚以前のエチケットのようなもの。ハッとしましたね。ラッキーさんはプレゼンテーションが課題とか、「プレゼンで一番難しいのは、聞く側が異分野の人の場合、いかに僕の話を寝ないで(笑)集中して聞いてくれるか、正確に理解してくれるか。そのため話し方もシンプルに、わかりやすく工夫しないとイケない。来

年はもう少し上達したい」。今西さんも「プレゼンは私も苦手。というか、これまで日本の大学ではあまり学んでこなかった。アドバイスはすごく貴重です」。二人とも、まだ四年後の明確なビジョンは定まっていなかった。しかし、二年次からは武者修行ともいべき海外研修もスタートします。なんとかが在学期間中に、自分の進むべき道やテーマをしっかりとつかみたいと語ってくれました。今年度始まったばかりのこのリーディングプログラムは、長崎大学にとつての新しいチャレンジなのです。

少人数でリーダーの資質を磨くシステム



コミュニケーションスキルのクラスでは相手とどんどん替えながらスピードトーク。

「ヤマネコ可愛い！」を きっかけに、長崎の自然に 興味を持ってほしい

九十九島動物園飼育員

村山友美

人に馴れさせない ギリギリの距離感

「ほら、やまと、エサだよ。そんなところに登ってないで、降りておいでよ。やまと」

どうもいつもと勝手が違うな…と警戒するように上から見下ろしていた一匹が、やおら立ち上がり、のっそり。歩く姿は、あきらかにネコとは違う、ヒヨウのような精悍な体つきのやまと、オス七歳。

国の天然記念物ツシマヤマネコです。村山友美さんが肉挟みでつかんだ馬肉をフェンス越しに差し出すと、やまとが後ろ足で立ち上がり、ちょうど顔の高さの生肉にかじりつく、ペロリ。しかしその後は、ねだるわけでもなく、丸い瞳で村

山さんをしつと見るやまと。その距離間は絶妙。

「ツシマヤマネコは将来的には山に帰しますから、現在飼育中の親世代の個体でも人間に馴れない方がいい。馴れると人間の生活域に近寄りすぎて交通事故にあたりして危険なのです。すごく可愛いんですけどね、ここはがまん」。

長崎大学環境科学部の卒業生である村山さんは、佐世保市の九十九島動物園に来て丸四年。その前は和歌山県のアドベンチャーワールドで、なんとパンダの繁殖を主に手掛けてきたのだそう。す。「ジャイアントパンダは園の看板的な動物でしたから、責任もひときわ重く感じました。何かあったら国際問題になってしまう。でも、赤ちゃんが産まれて大きくなる一

年間のサイクルを見られたので、そろそろほかの動物をやってみたいなど思っていたところ、私の地元佐世保にツシマヤマネコが繁殖事業の一環で来ると聞き、それですら希望して来ました」。

まだ確立されていない からこそ面白さ

在学中からツシマヤマネコの子育てを研究してきた村山さん。しかし入学した当初は、動物にかかわる何か…という漠然とした思いしかなかったといいます。

「研究室を決めるとき、初めてツシマヤマネコを意識しました。長崎県で育つたのに、同じ長崎の希少種を知らないなんてもったいな

いな、と。環境科学部では、環境に関わる事柄を、まずは広く浅く知ることができて、そこからゆっくりテーマを絞り込んでいけるのが、私にはよかったですね」。

対馬の生態系の頂点とはいえ、約一〇〇頭の生息数しか確認されていないツシマヤマネコ。昨年は交通事故で十三頭が命を落としており、繁殖は急務とされています。「ヤマネコの繁殖期には、この展示用の施設ではなく、非公開の繁殖用の施設に移します。やはり人の声や他の動物の鳴き声などが聞こえるとストレスで落ち着かないので、それからオスを何頭かのメスの部屋の前の通路を歩かせてお見合いをし、同居、そして交尾へ。でも難しいですね。相性がよさそうだと合わせてみると、どちらか

「環境」は多方向から アプローチができる

ヤマネコに噛まれることもあるんでしょか？

「ありましたね。エサをやるときにヤマネコの前足が私の手にひっ

かかって、それに驚いて、私の長靴の上からがぶりと…。だからその子は悪くないんです。距離感を読むのがプロですから動物に噛まれるのは恥ずかしいこと。

あくまでヤマネコ目線の村山さん。動物のエサやり体験やガイドなど、来園する子どもたちとの交流も、この仕事の楽しさとも。

「佐世保の子どもたちは、みんな必ずここに来ます。最初は、ヤマネコ可愛い！でいいと思うんですけど。それがきっかけになって、長崎県の自然や生態系などに興味を持ってもらえたら嬉しいですね。同じ環境科学部で学んだ友人たちは、公務員や会社員になる人もいれば、山に入って動物の行動観察をする人など、進路はさまざま。最近気づいたのですが、『環境』は人間の生活のあらゆる場面に関わってくるということ。どんな仕事に就いても、積極的にアプローチができます。だからまだやりたいことがはつきり見えないという高校生にもお勧めですよ」。

今は自分のことよりヤマネコの子どものことが最優先という村山さん。夢中になるものをしっかりと持っている人特有の、キラキラした目で語ってくれました。



むらやまともみ
長崎大学環境科学部卒業後、和歌山アドベンチャーワールドに就職してジャイアントパンダを担当。パンダの出産、子育てを間近に観察する。2009年より西海国立公園九十九島動物園森きらの飼育員としてツシマヤマネコの繁殖に携わる。現在の担当はツシマヤマネコのほかに、ツシマシカ、5メートル以上の巨大なアミメニシキヘビなど。

陸上で七日間も 生きる？

『グラバー図譜』の美しい絵と魚についての話が毎回興味深いこのコーナー。今回山口敦子先生にご紹介いただくのはこちらです。

「ナヌカザメは、日本各地をはじめ西部太平洋の水深二〇〇メートルに及ぶやや深い海に分布しています。全長は最大でも一メートル超ですが、成長するにつれ、でつぷりと太くなっています。ナヌカザメとは、『陸にあげられてからも七日間は生きる』ことにちなんでいます。確かに、早朝魚市場に陸揚げされたナヌカザメが夕方になっても生きていたことに驚いた経験があります」。

生命力が強いんですね！

「ナヌカザメ類に共通してみられる複雑な斑点模様は、種を分類する際の有力な証拠の一つとされてきました。しかし、その模様は個体や地域によっても違うことから分類が混乱し、世界に何種いるのかという議論が続いています」。

この暗色の斑点模様は周囲の海底環境に溶け込んで身を隠す、カモフラージュの役割を果たしています。ふだんは海底にじっと潜んでいることが多いナヌカザメも、いざ餌を見つけると一転してハンターへと変身。小さく鋭い歯が無数に並んだ大きな

口で、イカやタコからサメやエイまで食べてしまいます」。

風船のように 膨らむ

「ナヌカザメには、ある特技があります。海水を大量に飲み込んで胃の中にためこみ、まるで大きな風船のように球形になるまで、体を膨らませることができるのです。そのため、バルーン（風船）・シヤークや、スウエル（膨らむ）・シヤークといった英名がつけられました」。

グラバー図譜に描かれた体のひれは小さく、映画『ジョーズ』でお馴染みのサメ特有の大きな第一背びれとはかなり異なります。ナヌカザメでは、体の後方に二つの背びれが近接して備わっているのが特徴です。外敵に出くわすと柔らかい体をくねらせながら泳ぎ、コンパクトな背びれに邪魔されることなく、するりと岩の隙間や割れ目に逃げ込むことができます。そして海水を大量に飲み込んで体を風船のように膨らませれば、もはや引つ張り出すことは不可能です」。

なんと！面白い特技ですね。

“人魚の財布”と 呼ばれる卵殻

多くのサメは胎生ですが、ナヌカザメをはじめとしたトラザメの仲間

は卵生です。長さ10cm超の平たく茶色い卵殻を生みます。卵殻の上下両端にある弦が海藻などに絡まり、流されることはありません。その美しい卵殻を光に透かして見ると、黄色い卵とともに発達途中の躍動感ある胎仔が浮かび上がります。卵殻が生ま落とされてから約一年後に、発育を終えたサメは卵殻を破り孵化します。海岸に打ち上げられた空っぽの卵殻を手にした人は、紐のついた巾着のような構造の卵殻を、きっと人魚の落し物だと考えたのでしょう。これらの卵殻は、日本でも海外でも“人魚の財布”と呼ばれています。同じ呼び名があるなんて、興味深いですね。

伝統の卓袱料理

「以前、漁獲物を横取りするナヌカザメを駆除出来ないものかと、日本海に面したある県の方から相談を受けたことがあります。オオサンショウウオに似た暗色の斑模様と恐ろしい顔つき、薄気味が悪くていかにも不味そうで……と。いえいえ、実はこのサメ、肉質が素晴らしく、長崎では最も市場価値が高い食用のサメであることをお話ししたところ、驚愕された様子でした」。

長崎でサメ（フカ）の湯引きといえば卓袱料理にも登場しますね。硬い鱗を完全に取り除いて皮と身を残

し、酢味噌をつけて食べると、このサメ独特のトロリとした柔らかい白身とモチモチした皮が見事な食感。長崎では“ヤモリ”の名で親しまれ、長崎魚市場での競りにあわせて県外からも陸送されてくるほどです。ナヌカザメは、市場内で湯引きに加工されて魚屋さんへ売られるので、本来の姿を見たことがある人は少ないかもしれません。ところ変わって三重県の伊勢志摩地方では“ネコサメ”と呼ばれ、古くから結婚式などの晴れ食に欠かせない食材として活用されてきました。日本狭しといえども地域によって魚の価値もがらりと変わります。この美味しい魚、長崎伝統の味“として伝えていきたいものです”。

奇妙な外見からは想像もつかない美味、意外性が魅力ですね。



解説 山口敦子

長崎大学水産・環境科学総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に『干潟の海に生きる魚たち—有明海の豊かさ危機』（東海大学出版）など。



Glover Atlas

ナヌカザメ

Cephaloscyllium umbratile

画家 長谷川雪香

グラバー図譜

日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern & Western Japan

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

高校生の皆様には、将来に夢と希望を抱きつつも、大学あるいは大学院では何を学び、どういった職業につけるのかと悩んでいる人も多いのではないのでしょうか。特集は「長崎大学のいま!」と題して、「工学部」、「教育学部」でのユニークな取り組みを紹介いたしました。本特集は、次号からシリーズとして、長崎大学の各学部を紹介していく予定です。また、前号に引き続き、平成26年4月開設予定の「多文化社会学部」と長崎大学大学院「熱帯病・新興感染症制御グローバルリーダー育成プログラム」を紹介しています。大学概要や各学部紹介パンフレットなどと併せてご覧いただければ、長崎大学の魅力がさらに深まるものと思われます。特に、長崎大学を目指す受験生は必見です。「卒業生に聞く」のシリーズは、「ツシヤママネコ」の飼育・繁殖に従事している村山友美さん。これからも各方面で活躍している卒業生を紹介していきますので、ご期待ください。

(原田哲夫)

[編集・発行]

Choho企画編集会議

編集長

原田 哲夫 広報戦略本部副部長
工学研究科 教授

副編集長

池田 幸恵 水産・環境科学総合研究科 准教授

編集委員

堀内 伊吹 副学長、教育学部 教授
吉田 高文 経済学部 教授
相楽 隆正 工学研究科 教授
松下 吉樹 水産・環境科学総合研究科 教授
小林 信之 歯学部総合研究科 教授
堀尾 政博 熱帯医学研究所 教授
佐々木 均 病院 教授
延田 典男 やってみゅーでスクマネージャー
深尾 典男 副学長、広報戦略本部部長 教授
西村 司郎 広報戦略本部 専門職員
石田 亮二 広報戦略本部 主査
高藏 祐亮 広報戦略本部
田村 匠平 広報戦略本部

編集 川良 真理
デザイン 三浦 秀樹
企画編集アドバイザー 浅野 眞

TEL.095-819-2007

FAX.095-819-2156

<E-mail>

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

[発行日]2013年10月1日

プレゼントクイズ

長崎大学 通 クイズ

長崎大学に関する知る人ぞ知る新事実が続々登場するクイズです。さあ、あなたはどれが本当だと思いますか?

長崎大学工学部1号館の入口あたりには、ほかの学部にはない、工学部ならではの装置が備え付けられています。

それは何でしょう?

ヒント:学外の人ほど便利

植え込みに水をまく自動散水機



1

別館4階まで上がる斜行エレベーター



2

教員の名前から研究室をさがせるタッチパネル



3

解答は挟み込みのハガキにご記入のうえ、郵送してください(アンケート内容もしっかりご記入ください)。正解者の中から抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント!

前号の答え

Q 水産学部棟の玄関にある骨格標本は?

① スナメリ

このスナメリの骨格標本は、水産・環境科学総合研究科の天野雅男教授のゼミで解剖されたもの。スナメリの特徴である、ヒレの中に5本の指の骨があるのがはっきりわかります。内臓などはサンプルにするため処置が難しいので先生が扱いますが、骨の肉を少しずつ削いでいく作業はゼミの学生も手伝ったのだとか。5月に行われた水産学部の学部祭「鴻洋祭」でも屋外展示されました。



今回のプレゼント

豊かな水と緑に囲まれた南島原。その自然の恵みを受けた椎茸は旨みたっぷり。歯ごたえのある大ぶりな「満月」、戻す時間が短い手間いらずの「三日月」など、料理の目的に合わせて使い分けできる「乾燥椎茸 月明り満月セット」は、第44回長崎県特産品新作展の農産加工・酒・飲料品部門で奨励賞を受賞しました。今回は正解者のなかから抽選で5名にプレゼント。

提供/サンエスファーム TEL.0120-41-3846



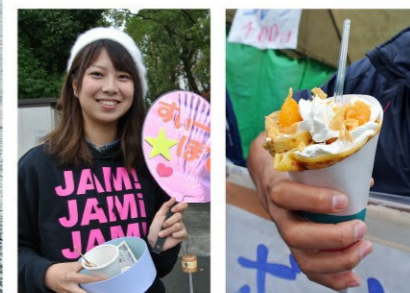
肉厚な椎茸を存分に味わえる贅沢タイプから、炊き込みご飯や煮物など様々な料理にアレンジできるスライスタイプまで、4種類が1袋ずつセット(3200円)。

長崎県物産館 TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/n_bussan/

長大祭2013 & ホームカミングデー



よさこい部「突風」



2012年の長大祭のようす。

長崎大学の秋のお楽しみ「長大祭」。今年は11月23日(祝・土)、24日(日)の2日間、文教キャンパスで開催されます。今年のテーマは「LINK」。学部祭との連携、他大学のとのコラボレーションなど、さまざまな「つながり」を体感できます。恒例企画のミスコンテストや「学長としゃべり場」ほか、今年はお化け屋敷も企画。霊界との「つながり」も体験できるかも?? 本誌の表紙を飾ったよさこい部「突風」の演舞も両日行われます。

また、長大祭に合わせて長大卒業生をお招きするイベント「ホームカミングデー」も23日に開催決定。毎回注目のゲストですが、今年も元プロ野球選手で野球解説者の田尾安志さんの登場です。そのほかチャアリーディングや「突風」の演舞も予定されています。

問い合わせ 長大祭2013 TEL.095-819-2071
ホームカミングデー TEL.095-819-2154

長崎大学リレー講座2013

各界の第一線で活躍する講師をお招きして講演やディスカッションを展開する長崎大学リレー講座が、今年も開催されます。10月下旬から12月にかけての数回にわたり行われますが、詳しい日程、プログラムについては長崎大学のホームページでご確認ください。長大生だけでなく一般の方もご参加いただけますが、恒例イベントとして楽しみにして来られる方も年々増えており、席に限りがあるため、事前予約をされることをおすすめします。

詳しい内容・お申込みは http://www.nagasaki-u.ac.jp
問い合わせ先 長崎大学広報戦略本部 TEL.095-819-2007



過去のリレー講座の様子

申込方法や最新情報など、詳しくは長崎大学のホームページをご覧ください。

http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/open/